

1 1 4 イエスは何故指差さなかったのか

《聖マタイの召命》

2024

真鍋友範



1 考えられる理由

髭男には、イエスの視線だけで、用があるのが自分か隣の人かを判断できない。だから、確かめたかった。

確かめる手段として、左手で（右手は税金を支払い動作中）聞いた。

「ご用の人は、私ですか、それとも隣の人ですか」
質問をして受けたイエスは、その質問を、左手で受け止めた。

すぐ、答えたかったが、その位置からは、目的の男の顔が髭男の顔に隠れて、鮮明に見えない。

そこで、イエスは右足を横に一步踏み出した位置まで視線の位置をずらした。

ここで、指差しても、髭男と眼鏡男（マタイ）相互の位置が近すぎて、判断出来ないと考えたイエスは、右手で【向こう側のポーズ】を髭男に見せることで、召命相手を特定した。

もちろん、廻した手が止まる位置は、相手の顔付近であり、イエスの目と、イエスの手の甲を結ぶ延長線上には、目指す人物（マタイ）の顔がある。

ちょうど、マタイの頭頂部は、父なる神からの一条の光が注がれ、イエスを導いていた。（頭頂部に光点が見える）

イエスは、核心を持って、マタイに言った。「私に従いなさい」と

収税作業の監視役のマタイは、眼鏡を左手に持って、イエスに気づかず、作業に集中している。前のめりで金銭計算を監修していたのだ。

イエスの言葉に、イエスの存在を知ったマタイは、イエスの視線や右手の動作から自分が呼ばれていることを、即座に理解し、体を起こし立ち上がり、無言でイエスに従った。

（イエス一向に従うマタイの服装だけは、他の人物達の服装と異なり、イエス一行の弟子たちの服装に馴染んだ地味目な服装であった）。

つまり、指差したのでは、区別がつかないという場面であったからなのだ。

特定の人を呼ぶなら、人差し指で指差すに違いない、と考え、決めつける人は、カラヴァッジョの自由な画面構想力に追いついていないことになる。

狭量な先入観や思い込みを否定する姿勢は、カラヴァッジョの描いた絵画のあちこちに見られる。